

計 量 史 通 信

Communications in Historical Metrology

No. 85

一般社団法人日本計量史学会
2020 年度定時総会と研究発表会開催
2020 年 3 月 6 日、日本計量会館で

日本計量史学会の「2020 年度定時総会・研究発表会」が、2020 年 3 月 6 日（金）、日本計量会館で開催された。

新型コロナウイルス感染拡大の状況から、研究発表会を当初予定から短縮し、懇親会は中止した。

進行は小川実吉理事。



総会の様子

定時総会を開催

出席者、議決権行使者の合計が会員の過半数に達しており、総会が成立していることが報告された。

山田研治氏を議長に選出して議事を進行した。

議案は 2 つ。

■ 2019 年度決算案を承認

議題 1 は、2019 年度決算案の承認。山田研治会計担当が説明した。岡路正博監事が監査報告をした。

2019 年度決算案は拍手で承認された。

■ 役員を選任

会長に山田研治氏を互選

議題 2 は、役員を選任。

投票で 2020・2021 年度役員を選任した。（役員名別項）

第 1 回理事会を開催し、理事互選により、山田研治会長、副会長 3 氏（大井みさほ、黒須茂、西脇康）、溝口義浩事務局長を選任した。

報告事項は 2 つ。

報告 1 は、2019 年度事業報告。溝口義浩事務局長が報告した。

報告 2 は、2020 年度事業計画と同事業予算。2020 年度事業計画は溝口義浩事務局長が報告、同事業予算は山田研治会長が報告した。

退任した内川恵三郎前会長があいさつした。

●役員（敬称略、順不同、○は新任）【会長】○山田研治【副会長】▽大井みさほ▽黒須茂○西脇康



山田新会長



内川前会長

【理事】▽新井宏▽内川恵三郎▽小川実吉○作間英一▽篠原光彦▽島田好昭▽高松宏之▽中本文男▽松本榮壽○横田貞一▽横田茂子▽吉田清 【事務局長（理事）】 ○溝口義浩 【監事】 ▽岡路正博▽山崎敬則

研究発表会を開催

司会は小川実吉理事。発表会の内容は、大井みさほ副会長の報告を参照のこと。

議案 1 2019 年度決算、監査報告

損益計算書

2019（平成31）年1月1日から2019（令和1）年12月31日

費用	金額	収益	金額
印刷費（計量史研究）	100,980	会費（一般会費）	665,000
印刷費（計量史通信）	112,860	会費（総会）	219,000
印刷費（総会）	43,050	会費（さぐる会）	275,000
印刷費（さぐる会）	37,260	寄付金（特別会費）	0
荷造運賃費	42,648	広告収入	0
消耗品費	26,154	頒布金収入	47,121
旅費交通費	30,000	受取利息	170
支払手数料	2,535	正味財産（損失）	26,974
通信費	105,778		
諸会費	0		
会議費（総務）	2,465		
会議費（総会）	113,137		
会議費（さぐる会）	151,098		
事務所賃借料	332,100		
校閲費	16,000		
租税公課	0		
広告宣伝費	82,700		
特別費	0		
未収金償却費	34,500		
合計	1,233,265	合計	1,233,265

貸借対照表

2019（令和1）年12月31日

資産	金額	負債及び財産（純資産）	金額
普通預金（三菱東京 UFJ）	428	未収金償却引当金	28,000
普通預金（三菱東京 UFJ）	40,908	前受金	24,500
普通預金（三菱東京 UFJ）	18,906	基本財産	2,334,568
普通預金（みずほ）	2,295		
普通預金（ゆうちょ）	264,331		
定期預金（三菱東京 UFJ）	2,000,000		
現金	5,226		
頒布資料	0		
未収金	28,000		
繰越正味財産償却（累積）	0		
正味財産（損失）	26,974		
合計	2,387,068	合計	2,387,068

（明細書）未収金

	件数	金額
未収金（会費）	4	28,000
未収金（さぐる会）	0	0
合計	4	28,000

（明細書）会費収入（未収会費含まず）

	口数	金額
1 会費 正会員	81	567,000
2 会費 高齢会員	17	59,500
3 会費 賛助会員	1	35,000
4 会費 名誉会員	1	0
6 前受会費 7000 円	-2	-14,000
7 前受会費 3500 円	-3	-10,500
合計	95	637,000

報告事項 1 2019 年度事業報告

I. 会員数

正会員 98 名、賛助会員 1 名、名誉会員 1 名、客員会員 4 名、計 104 名
入会：1 名（野上道男氏）

II. 2018 年度、2019 年度役員

会長 1、副会長 3、理事 12、監事 2

【会長】内川恵三郎、【副会長】山田研治、黒須茂、大井みさほ

【理事】新井 宏、小川実吉、加島淳一郎、篠原光彦、島田良昭、高松宏之、中本文男、西村淳、西脇康、松本榮壽、横田茂子、吉田清

【監事】山崎敬則、岡路正博

III. 事業関係

1. 定時総会（1 回）

日時：2019 年 3 月 20 日（水）、13：00～13：50

場所：日本計量会館 3 階会議室（日本計量振興協会）

成立条件：会員（有権者）数 113 名、出席者 31 名、委任状 46 名で総会成立。

議事：次の議案及び報告を諮り承認された。

第 1 号議案 2018 年度決算報告、監査報告

報告事項 1 2018 年度事業報告

報告事項 2 2019 年度予算、事業計画

2. 2019 年度研究発表会

日時：2019 年 3 月 20 日（水）、13：50～17：00

場所：日本計量会館 3 階会議室（日本計量振興協会）

・講演・研究発表会 13：50～15：35

特別講演 司会：大井みさほ

(1)分銅校正技術の高度化に携わって

国立研究開発法人産業技術総合研究所計量標準総合センター工業計測標準研究部門 植木正明

(2)日本計量史の祖・狩谷権齊（一社）日本計量史学会理事 新井宏

・研究発表 司会 山崎敬則、西脇康

(1) 山田研治：計量会館展示委員会報告から

「律呂黄鍾管と度量衡—小泉袈裟勝先生の黄鍾管長の実験—」

(2) 松本榮壽：「電気」の精をめぐる旅」

(3) 藤原正克：「徳川幕府の織物寸法統制と取引の実態」

・懇親会 司会：黒須茂 会場：西安刀削麵酒樓 神楽坂店

3. 計量史をさぐる会 2019

日時：2019 年 10 月 18 日（金）、13 時～17 時

会場：近江度量衡株式会社（滋賀県草津市）

(1) 会長挨拶 会長：内川恵三郎

会社概要説明

会社案内ビデオ

工場内見学

「会社案内と滋賀の計量」 近江度量衡株式会社 会長 平野將

(2) 特別講演 司会：小川実吉

①「滋賀大学経済学部附属史料館所蔵資料と近江商人研究」 滋賀大学名誉教授 宇佐美英機

②「福井県年縞博物館と年縞一年縞博物館の紹介」 福井県年縞博物館学芸員 長屋憲慶

(3) 研究発表 司会：山崎敬則

①大井みさほ レーザー事始め

②山田研治 養老律令と天平期の度量衡

(4) 懇親会

司会：黒須 茂、会場：あたか飯店 草津店

4. 機関誌の発行

『計量史研究』

Vol. 41No. 1 (No. 49) 2019 年 12 月 20 日発行

目次

解説 全自動質量比較器による分銅校正の信頼性評価：国立研究開発法人産業技術総合研究所

計量標準総合センター工業計測標準研究部門 植木正明

研究論文 レーザー事始め：理事 大井みさほ

研究論文 養老律令と天平期の度量衡：会員 山田研治

資料 電気の精をめぐる旅：理事 松本榮壽

研究ノート 12律呂の黄鍾管の長さや容量：会員 山田研治

『計量史通信』No. 83 2019年7月31日 発行

・2019年度（一社）日本計量史学会定時総会・研究発表会

定時総会の議案・報告、特別講演・研究発表の概要

・「計量史をさぐる会2019」の研究発表および展示の公募

・書評

①「時計と時間の歴史一日時計から原子時計へ」理事 大井みさほ

②「あかりの消えるときーアメリカのブラックアウトの歴史」理事 松本榮壽

・寄稿

①測量機の照準：会員 野口泰助

②随想 二兎を追わなければ：会員 中村邦光

・話題

—第42回江戸学懇話会に本会会員も参加

—国立科学博物館がNEWS展示 さようならキログラム原器「はかる」単位、130年ぶりに大改定

—NHKのEテレで「単位」関連番組を放送又吉直樹のへウレカ！「なぜ単位はいるのだろう！」

『計量史通信』No. 84 2020年2月20日 発行

・「計量史をさぐる会2019」実施報告

・総会の案内

・書評

①中川毅「『時を刻む湖』－7万枚の地層に挑んだ科学者たち－」中川毅「人類と気候の10万年」：理事 松本榮壽

②「メートル法と日本の近代化 田中館愛橋と原敬が描いた未来」吉田春雄著：理事 高松宏之

・寄稿

①愛橋先生、メートル法、吉田さん：会員 櫻井慧雄

②「年縞博物館」への道：理事 松本榮壽

③夏休みの自由研究：理事 大井みさほ

④雑音の効用：会員 小宮勤一

⑤「趣味」はカンフル剤：会員 中村邦光

⑥“計量”への誘いとその歩み：理事 吉田清

・話題

—御即位記念特別展 正倉院の世界 —皇室がまもり伝えた美—（後期に展示：正倉院宝殿「漆胡瓶」）：会員 山田研治

5. 理事会、運営委員会

5-1 理事会（2回）

第1回理事会

日時：2019年4月20日（土）

場所：一般社団法人日本計量史学会事務室（日本計量会館2階）

（1）事務局報告（2）2019年度定時総会について：①2018年度会計報告②2018年度事業報告③2019年度事業計画及び2019年度予算について（3）研究発表について

第2回理事会

日時：2020年1月18日（土）

場所：一般社団法人日本計量史学会事務室（日本計量会館2階）

(1) 事務局報告 (2) 2020年度定時総会について：①2019年度決算②役員改選③2019年度事業報告④2020年度事業計画及び2020年度予算について (3) 研究発表について (4) 計量史通信の発行について

5-2. 運営委員会（4回）

第1回運営委員会

日時：2019年3月9日（土）

場所：一般社団法人日本計量史学会事務室（日本計量会館2階）

(1) 事務局報告 (2) 2019年度定時総会ならびに研究発表会のプログラム確認 (3) 2019年度定時総会ならびに研究発表会の出席者及び委任状提出者の確認 (4) 2019年度定時総会ならびに研究発表会の役割分担

第2回運営委員会

日時：2019年6月22日（土）

場所：一般社団法人日本計量史学会事務室（日本計量会館2階）

(1) 事務局報告 (2) 計量史研究（Vol. 41. No1. (Vol. 49)）の編集について (3) 計量史通信83号発行について (4) 「計量史をさぐる会2019」の実施計画

第3回運営委員会

日時：2019年9月7日（土）

場所：一般社団法人日本計量史学会事務室（日本計量会館2階）

(1) 事務局報告 (2) 「計量史をさぐる会2019」のプログラム (3) 計量史研究について

第4回運営委員会

日時：2019年11月30日（土）

場所：一般社団法人日本計量史学会事務室（日本計量会館2階）

(1) 事務局報告 (2) 「計量史をさぐる会2019」の総括 (3) 2020年度定時総会と研究発表会について (4) 計量史研究の発行について (5) 計量史通信の編集について

報告事項2 2020年度事業計画及び事業予算

2020（令和2）年度事業予算

収入の部		支出の部	
摘要	金額	摘要	金額
年度会費	654,500	荷造運賃	60,000
賛助会員	35,000	印刷費	250,000
特別会費（総会・研究発表会）	250,000	消耗品費	22,000
特別会費（計量史をさぐる会）	250,000	旅費交通費	30,000
寄付金	10,000	支払手数料	2,500
頒布金収入	25,000	通信費	88,000
広告収入	0	諸会費	10,000
受取利息	170	会議費	309,370
正味財産（資本金）取崩	350,000	事務所賃借料	332,100
		校閲費	30,000
		租税公課	0
		広告宣伝費	66,200
		特別費	0
		未収会費償却費	24,500
		消耗品費（ <small>印刷費等</small> ）	350,000
		正味財産（剰余金）	0
合計	1,574,670	合計	1,574,670

2020（令和2）年度事業計画

事業	開催時期	摘要
定時総会・研究発表会	年1回 3月	
計量史をさぐる会	年1回 10月	
計量史研究の発行	年1～2回	
計量史通信の発行	年2回	16頁×年2回
関係団体等への協力	随時	
理事会、運営委員会	年5～6回	
日本計量振興協会展示品調査委員会	2～3回	
調査研究委員会（特定テーマ）	随時	
会員交流会	随時	

特別講演・研究発表の概要

報告：理事・副会長 大井みさほ

コロナウイルスのため、プログラムを変更し、15時35分に終了した。

特別講演（中止）

「温度標準の変遷と最近の動向に関して」

産業技術総合研究所温度研究グループ 中野 亨

研究発表

1. 古代・中世の権衡資料－南関東地方の考古遺物から：葉山茂英

神奈川県、東京都、千葉県で出土の考古遺物から権衡資料の一端を明らかにしようとする研究である。ここで、衡は錘、衡は棹の意味で、秤を表す。出土品としてたくさんの棹錘の実測図が示され、質量がgと匁で比較され、さらに出土場所の分布図が示された。

2. 『令義解』「養老令」の田積と1里の尺長について：山田研治

後日、別の機会に発表することになった。

3. 天才アンペールを探って：松本榮壽、小浜清子

電流の単位「アンペア」や「アンペールの法則」で知られるアンペールの若い時の家がリヨン郊外にあり、現在はアンペール記念館となっている。そこを訪れて調べた様々のことや、フランス科学アカデミーで見つけた婚姻証書、ブール中央学校の教師時代の資料、リヨン高等学校数学教師時代の仕事、パリ工芸博物館にある実験道具など、多くの資料を探り、アンペールという人物を詳しく探求した。

4. 放射温度計トレーサビリティの変遷：小川実吉

後日、発表することになった。

_____」お知らせ「_____

「計量史をさぐる会 2020」

2020年10月16日（金）、東京都新宿区の日本計量会館で開催

日頃、会員の皆様には当学会の運営に格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

今年も恒例の「計量史をさぐる会 2020」を開催することになりました。

■開催要項

【日時】2020年10月16日（金）、13時～17時

【場所】日本計量会館（東京都新宿区納戸町25-1）

懇親会は中止します。なお、新型コロナウイルス感染状況で開催変更の場合もあります。

『計量史研究』 Vol.42 No.1(No.50)2020

現在校閲中。2020年12月発行予定。

《図書紹介》

計量士および計測技術者のための計量管理の基礎と応用

日本計量振興協会計量管理新教科書作成委員会編

日本計量史学会理事 溝口義浩

本書は、計量士国家試験における科目「計量管理概論」の内容をカバーすることを意識して作成された教科書である。1992（平成4）年に当時の計量管理協会から発行され、コロナ社から発売されていた「計測管理必携 技術者の基礎と実践のために」をもとに、この間の技術や社会の発展を反映させる形で編集されたものである。

「計測管理必携」は当時の計量士国家試験準備講習会のテキストにも使用され、私も一般計量士登録後も参考図書として活用してきた。それから28年、「不確かさ」など最新の計量技術を網羅した新しい教科書の誕生である。この教科書を作成するうえで（一社）日本計量振興協会の中に作成委員会を立ち上げ、その下に「計量管理新教科書作成部会」が組織され、原稿の執筆・調整・確認が行われた。それに携わった方は日本の計量計測界や不確かさの分野を代表する錚々たるメンバーである。それだけでも大いに価値があるといえる。

計量管理新教科書作成委員会 委員長 今井秀孝氏 幹事 小池昌義氏
 〃作業部会 部会長 小池昌義氏 幹事 榎原研正氏

紙面の都合上 委員の方は省略。

この教科書は計量士を目指す人が計量管理についての勉強に活用してもよいが、すでに計量士の資格を持つ人や企業・校正機関・試験機関などにおける計測のマネジメント技術の第一線で活躍している計量計測技術者も是非読んで欲しい一冊である。章末には演習問題も組み込まれていることから企業などの社内教育にも十分に活用できる内容である。私も早速購入し、少しずつ学習してきたが、本書を読破したときに、より一層信頼できる測定技術を身に付けることができたという実感が生まれた。

【著者】日本計量振興協会計量管理新教科書作成委員会編

【出版社】コロナ社

【発行】2020年6月12日

【版型】B5版、304ページ

【定価】4500円＋税

【ISBN】978-4-339-03229-1

【目次】

1章 計量管理の役割と課題、2章 計量の活用、3章 測定の基礎、4章 計量管理における統計的手法、5章 測定の信頼性の確保と評価、6章 測定システムの設計・評価・改善、7章 品質管理と計量管理、8章 計量管理と国際規格



自著を顧みて

「これでわかる方程式」の刊行にあたって

日本計量史学会理事・副会長 黒須茂

清々しい新年を迎え、今年は東京オリンピックの開催で、多くの日本選手が私たちの心に感動と興奮を与えてくれるものと期待していた。その矢先に新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、社会全体が大混乱に陥れられた。世の中の動きとは無縁の筆者ら老人にも外出自粛はなんとも悩ましいが、これも神が与えた試練と割り切って耐えるより仕方あるまい。読者諸兄には、出口の見えない自宅での幽閉生活による不自由の中での毎日、心中をお察し申し上げる。

実は、こんな時期に筆者のかつての教え子たちを募って、またもや怪しげな「これでわかる方程式（算数がもっと身近になる）」（パワー社）なる爺さん、婆さん、父さん、母さん向けの算数の入門読み物を出版した。この本は小・中学校の子どもたちに読んでもらうことを狙ったのではなく、大人たちに是非目を通してもらうことを狙って筆を執ったのである。

今から10年ほど前になるが、出版社の親父さんに「算数の入門書・啓蒙書」の執筆を頼まれて、「わかる数学の勉強（分数・小数・方程式）」という売れそうもない本を世に問うた。わが国には意外にお年寄りの勉強家がいるもので、毎年のように何通かの質問・問い合わせが舞い込み、うれしい悲鳴を上げた。それ以降、読者対象は子どもたちの勉強に関心を持つ老人や両親に絞って執筆することにした。

この本を謹呈した知り合いの中には「孫が算数で苦勞しているので、渡しておいた」という方もいる。しかし、渡されたお子さんもさぞかしありがた迷惑で、なんの役にも立たないどころか邪魔になるのが現実である。今の学校で使われている教科書でも練習帖でも、見せてもらうと実によくできていることに感心する。これだけ親切に説明されていて、落ちこぼれた生徒が生まれるのは考えられない。しかし、現実には、算数嫌いや勉強嫌いが続出している。この算数の入門書を通して算数嫌いや勉強嫌いをなくすための一助となればと期待している。

そんなわけで、この本は爺さん、父さんらを読者対象にして世に問い、少しは売れたようである。それから、出版社の親父さんに会うたびに「柳の下にドジョウは2匹いる。3匹はいない。だからもう一度、わかり易い算数・数学の入門書を書いてほしい」という甘言につられて、あれよあれよという間に、算数の入門書ばかり6冊も書き上げてしまった。それらを列挙しておこう。

▽知って得する仕事に役立つ微分・積分（实例で学ぶ数学）2001

▽わかる数学の勉強（分数・小数・方程式）2010

▽やさしい数学の勉強（分数・小数・文章題）2011

▽よくわかる数学記号（力学に出てくる量と単位）2012

▽教えて！算数・数学（なぜなの・どうして）2014

▽こうすれば解ける！文章題（問題の正しい読み方・解き方）2017

これらの本の表題を見ると、筆者の提案が採用されたことは一冊もなかった。全部出版社の親父さんがねじり鉢巻で考えた表題であり、苦勞の跡が忍ばれて思い出深い。この中で、最後の著書はこの一〇年間の算数の入門書というよりも、かつての職場（高等専門学校）での学生たちの数学嫌



いをなくすために執筆した、六人の教師の共著であり、趣を異にしている。

「努力すればわからないことはない」というのは易いが、筆者らは数学の深遠なる道を極めるわけでもなく、そこそこの仕事に活用できる数学の学力程度なら誰もが理解できると信じたい。世の中には利口な奴は確かにいる。同じ授業を聴いていても、その応用まで発展させて考える者もいれば、その考えそのものを理解できない者もいる。われわれ凡人はそういう利口な奴に徹底して教えてもらうことが、自分を発展させる上で不可欠である。

今の子供たちにとって、自分の納得できないことを尋ねて答えてくれる大人たちが周りにいないのである。それが算数嫌い・勉強嫌いをつくっている元凶であると筆者らは考えている。「円周率パイというのは3.14に決まっている」「そういう値にしようと思ったんだ。わかったら、素直に覚えておくのだ」「分からないものはエックスとおくと、昔の人が決めたんだ」というような無茶苦茶や大人の横暴さが子供たちの向上心や成長心を阻害してきたとこの本では訴えている。忙しさにかまけて、お子さんやお孫さんの勉強に無関心できた読者諸兄にはご一読を奨めたい。

【書名】 これでわかる方程式（算数がもっと身近になる）

【監修・著者】 黒須茂（監修） 山川雄司、神谷哲、山崎敬則（共著）

【判型】 A5版、100ページ

【ISBN】 978 - 4 - 8277 - 3132 - 3

【出版社】 パワー社（電話 03 - 3972 - 6811、FAX03 - 3972 - 6835）

【発行】 2020年2月25日

【価格】 1500円（税別）

【目次】 ▽第1章：方程式を教えるとは ▽第2章：1次方程式 ▽第3章：2次方程式 ▽第4章：3次方程式

《図書紹介》

アメリカのブラックアウト変遷史

David E. Nye（著）、松本栄寿・小浜清子（共訳）

日本計量史学会理事 高松宏之

本書は、アメリカにおけるさまざまなブラックアウト（大規模停電）の事例を時系列で示しながら、人々と電気・電力網の関係を考察している。

「ブラックアウト」(blackout)という言葉は、初め劇場で一幕の終わりに、舞台の照明を突然消すことによって劇的な効果を上げる手法として使われた。しかし、本書では、大規模停電あるいは発送電システムの全系崩壊の意味で使われている。

「停電」は電気が人々の生活で使われるようになった当初からついて回った現象であるが、1930年代から電気が日常生活の一部になると、大規模な停電が発生するようになった。

ブラックアウトが発生することにより、今日では単に電力の供給停止だけではなく、社会的な混乱、軍事的戦略、ネットワーク都市の危機、工業技術システムの欠陥、経済的、社会的政策の不備といったさまざまな分野に重大な影響が派生する。

本書は、アメリカの停電の歴史を時系列で示しつつ、人文科学や社会科学の観点から、人々の動向や原因、背景などを考察し、アメリカ社会の歴史を読み解いていく。

本書の特徴は、ブラックアウトを技術的なシステムの面から捉えるだけではなく、ブラックアウトに直面した人々の心理や行動にも焦点を当てていることである。

著者は、大規模停電に関する「報告書には、停電の社会的あるいは文化的な歴史はほとんど考慮

されていない」と述べ、「一般人の強烈で忘れられない経験はほとんど検討されないし、停電とはどのようなものであるかについての非技術的解釈は考慮されない」と指摘する。

「大規模停電」が発生したとき、人は何を考え、どう行動するのか。本書は、アメリカにおけるさまざまなブラックアウトの事例を示しながら、人々と電気・電力網の関係を考察している。

では、そのような本書が日本で出版される意味はどこにあるだろうか。

日本は世界的に見ても停電の少ない国であるが、東日本大震災（2011年3月11日）における停電や、続く「計画停電」など、停電をめぐる問題は社会問題化しつつある。

2018年の北海道胆振東部地震（2018年9月6日）に伴う大規模停電（ブラックアウト）では、産業へも大きな影響があったが、電気のない生活、交通信号ストップ、ATMおよびクレジットカードの使用不可、ガソリン給油のための行列など、まさに庶民にしわ寄せがきたことは記憶に新しい。

さらに2019年9月9日に千葉県を直撃した台風15号の影響で起きた大規模な停電は2週間以上も続き、さまざまな社会インフラの崩壊に直面した。日本の電力供給システムの脆弱さが明らかになったのである。

ブラックアウトの「先進国」であるアメリカの経験からもその教訓を読み取ることは、現代の日本に暮らすわれわれにとって、生活・社会が電気に依存し、その依存度がますます高まっている現状を見ると、大きな意味をもつと思われる。

共訳者の一人の松本栄寿（松本榮壽）氏は「本書は、我々の電気および電力網との関係と依存を解明する社会文化史である」と述べている。同氏は本会理事。

【署名】 アメリカのブラックアウト変遷史

【著者】 David E. Nye 著、松本栄寿訳、小浜清子訳

【定価】 3080円（本体2800円＋税）

【判型・ページ】 A5判、288ページ

【ISBN】 978-4-274-50743-4

【発売日】 2020年2月25日

【発行元】 オーム社

【主な目次】 第1章：電力網—大停電の夜がわたしたちに与えたもの、第2章：戦争—軍事戦略に組み込まれる「ブラックアウト」、第3章：事故—電力の普及と社会的連帯感、第4章：危機—豊かな社会に潜む暴力、第5章：輪番停電—カリフォルニア電力危機と電力自由化、第6章：テロ—9・11以後の世界をデザインする、第7章：自主節電—我々はどこから来て、どこへ行くのか



正岡子規を読む

日本計量史学会理事・副会長 大井みさほ

私はどうしようもない困った性格のようで、いろんなことに関心をもって誘われればついそのグループに入ってしまうようだ。計量史学会だってそうで、先輩に誘われて、断る理由もないまま入ってしまった。早稲田大学の語学の先生方が中心の読書会もそうで、これは読んだ小説等について語り、意見交換をするのだが、もう20年位入っている。最近では2019年7月に私の当番が来て、正岡子規の『病床六尺』を取り上げた。理由は明治の文豪と言われる夏目漱石や森鴎外はよく読んでいのに、正岡子規は名前をよく知っているだけで、『柿食えば金になるなり法隆寺』の俳句くらいしか知らないから、この際少し調べてみようと思ったからだ。読み進めると、子規が病床にとどまったままなのに世の中の動きを色々とさぐっている。

明治天皇の即位、大政奉還という慶應3年(1867)の10月4日に子規は松山で誕生、このころ自転車が入っている。明治5年(1872)3月に数えて40歳の父が死去、新橋横浜間に鉄道が開通、明治6年(1873)太陽暦採用、明治7年(1874)ガス灯、明治8年世界17か国でメートル条約締結という時代だ。

明治16年(1883)に上京、明治17年(1884)随筆『筆まかせ』を起稿、東京大学予備門に入学、給費生となり、坪内逍遙に英語を習う。明治18年(1885)日本がメートル条約に加盟、坪内逍遙の「小説神髓」が出る。

明治22年(1889)子規は漱石と知り合う、最初の咯血。明治25年(1892)大学退学、日本新聞社に入社。

明治27年(1894)日清戦争始まる。北里柴三郎がペスト菌発見。明治28年(1895)日清戦争に従軍、戦争終わる。樋口一葉の「たけくらべ」。

明治29年(1896)脊椎カリエスの手術。明治31年(1898)『歌よみに与ふる書』を雑誌「日本」で連載、「ホトトギス」第一号。明治33年(1900)最初の大咯血。

翌年『墨汁一滴』を雑誌「日本」で連載、明治35年(1902)1月病状悪化。虚子、左千夫、碧梧桐ら介護。

5月より『病床六尺』を「日本」で連載始め、9月17日まで。9月19日に死去、35歳だった。その後、明治38年(1905)漱石「吾輩は猫である」、与謝野晶子「君死にたまふことなかれ」となる。

子規は絵も好きでよく画いている。文章も絵画も写生が大切なことを論じている。その頃海外から入ってきた絵は、レンブラント(1606—1669)、フェルメール(1632—1675)、ミレー(バルビゾン派)(1814—1875)などであろうか。子規は浅井忠(1856—1907)の弟子の中村不折(1866—1943)に挿絵を頼んでいる。

子規は死期が近づいた9月1日にはフランクリンの自叙伝を読んでいる。その後、死の2日前には「足あり、仁王の足のごとし。足あり、他人の足のごとし。」と腫れた足を表現している。「肺病の夢みるならんほととぎす拷問などに誰がかけたか」

子規とはほととぎすの事である。優秀な若い人たちが結核でむざむざと死んでいく時代であった。

知との出会い：私が影響を受けた人

日本計量史学会 中村邦光

『計量史通信 78号』（2018年）掲載の随想を再掲します。

興味・関心を大切に

敗戦（1945年）後に義務教育の新制中学が発足し、その第二期一年生の担任として赴任してこられたのが「雷」こと長野師範（現・信州大学教育学部）出身の故市川長安先生である。私の故郷・信州の「雷」は、今まで晴天だったのが一転にわかには掻き曇り、一気に「バリバリ、ドーン」ときて、そのあと土砂降りの雨（説教）が降り、あっという間に「からっとした」もとの晴天に戻る。節目のはっきりした「雷」である。そして、誰いうともなく、市川先生の象徴的なニックネームである。

市川先生の教育方針は、今思うに「個性尊重の教育」であった。生徒一人一人の個性によってアドバイスと対応を変えておられたのである。敗戦後間もない時代を考えると画期的・進歩的な教育方針であったといえる。一人っ子で、我儘だった私に対しては「君は興味や関心のあることには専念するタイプだから、まずは興味や関心の対象を見つけ、それを大切にきなさい」というアドバイスであった。すなわち「嫌いなことを我慢してやらなくて良いから、そのかわり興味や関心を持ったことは、最後までやり遂げなさい」ということである。「個性を助長」して下さったわけである。

その後、私は高校時代には「無線狂（ラジオや無線機器の製作・設計の趣味）」となり、将来は「電器屋」になる決心をした。毎日を無線機と暮らせて楽しいだろうと思ったからである。そして、高校卒業と同時に東京・幡ヶ谷にあった電器メーカーに職工として就職した。ところが「趣味」は楽しいものであるが「仕事」となるとそうはいかないことが分かった。すなわち「面白くない」のである。面白くないことを辛抱するようにできていない私は、1年後に仕事を辞めた。

そして、50倍に近かった競争率の文部省援助の学生寮に入ることができ、学生生活が出来そうなので、受験科目が4科目（数学・物理・化学・英語）で学生寮の近くにあった東京理科大学（旧物理学校）へ入学した。そして、ともかく学生生活では、市川先生の教えを思い「興味・関心のある（面白い）」ことを探してはそれに専念し、面白くないことで「努力や辛抱」はしないように心掛けることにした。気楽なものである。市川先生は、難しい事を「努力や辛抱」で行うことではなく、興味や関心のあることに「楽しく専念」することを指導してくれたのである。

そしてその後、私は日本大学の教員になって、試行錯誤を繰り返しながらも、やっと市川先生のアドバイスである「自分の興味や関心に基づく」研究課題を探すことができた。

今、私は毎日が楽しい。興味と関心に基づく仕事をしているからである。そして、学生諸君に対して、偏差値教育では開発できなかった「興味と関心」に基づく能動的な能力の開発を助長する役割を果たしてきたと思っている。「知を与える」のが教育ではなく。自ら「知を発見する方法」を指導するのが「教育（学）」であると思う。

思うに、故市川長安先生は偉大な「教育者」であったといえる。そして、個性尊重の教育によって「知との出会い」を指導して下さった故市川長安先生に、改めて敬意と感謝の意を捧げる次第である。（日本大学名誉教授）

産総研計量標準総合センター (NMIJ)

『国際単位系 (SI) 基本単位の定義改定と計量標準』を刊行

BIPM 刊行の「SI 文書第 9 版 (2019) 日本語版」も収録

■ SI 基本単位の定義改定に関する情報を広く発信

産業技術総合研究所計量標準総合センター (NMIJ) は、国際単位系 (SI) の定義改定に関する情報を広く発信するために、冊子『国際単位系 (SI) 基本単位の定義改定と計量標準 付録: SI 文書第 9 版 (2019) 日本語版』を刊行した。web サイトにも、PDF ファイルを掲載した。

(https://unit.aist.go.jp/nmij/public/report/SI_9th/)

■ ダウンロード、印刷、配付できる

掲載ファイルはダウンロードできる。個人での使用および教育・研修での使用など、営利目的でなければ、許諾の必要はなく、印刷、配布できる。

■ 2019 年 5 月 20 日、SI の 4 つの基本単位の定義改定

2019 年 5 月 20 日、国際単位系 (SI) に関して大きな改定が実施された。SI の基盤である 7 つの基本単位 (秒 [時間]、メートル [長さ]、キログラム [質量]、アンペア [電流]、ケルビン [熱力学温度]、モル [物質]、カンデラ [光度]) のうち、キログラム、アンペア、ケルビン、モルの定義が改定された。

■ SI 基本単位はすべて普遍的な定数で定義

特に、キログラムに関しては、130 年ぶりの改定。この改定により、SI の基本単位は全てキログラム原器のような人工物から解放され、普遍的な定数にもとづき定義されることになった。

■ 7 つの基本単位を解説

この冊子は、定義の改定された 4 つの単位だけでなく、7 つの基本単位のそれぞれについての解説記事を収録している。

各記事では、「定義定数」にもとづく各単位の定義が導かれた経緯などが解説されている。

■ 「SI 文書第 9 版 (2019) 日本語版」

さらに、国際度量衡局 (BIPM) が 2019 年に刊行した「The International System of Units, 9th edition」の日本語版「SI 文書第 9 版 (2019) 日本語版」も収録。

NMIJ は、この冊子が定義改定に関する情報を収集する際の包括的なリファレンスとなれば幸いだとしている。

■ 冊子の仕様

【表題】『国際単位系 (SI) 基本単位の定義改定と計量標準』付録: SI 文書第 9 版 (2019) 日本語版

【発行】2020 年 3 月

【発行元】産業技術総合研究所計量標準総合センター (NMIJ)

【体裁】A4 判、192 ページ

【目次】▽まえがき▽国際単位系 (SI) 基本単位の定義改定と計量標準 (総論): 臼田孝▽国際単位



ダウンロードページの QR コード

系における長さの単位「メートル」の定義と実現：稲場肇、平井亜紀子、阿部誠▽プランク定数にもとづくキログラムの新しい定義とその実現方法：藤井賢一▽時間の単位「秒」についての基礎解説と最新動向：洪鋒雷、安田正美▽改定国際単位系における電気標準：金子晋久▽熱力学温度の単位「ケルビン」の定義改定：山田善郎、中野亨▽物質の単位「モル」の基礎解説とアボガドロ定数にもとづく新たな定義を導いた計測技術：倉本直樹▽光度の単位「カンデラ」および測光・放射標準：薮洋司▽国際単位系（SI）第9版（2019）日本語版▽国際単位系（SI）第9版（2019）要約日本語版

大阪商業大学商業史博物館紀要第20号刊行

2018年秋季企画展「はかりの文化史」企画のシンポジウム内容を収録

大阪商業大学商業史博物館の2018年秋季企画展「はかりの文化史」企画のシンポジウム内容を収録した『大阪商業大学商業史博物館紀要第20号』が、2020年3月10日付で刊行された。

展覧会は、大阪日本橋で計量器店を営み、自ら収集家でもあった故・匠原永治氏のコレクションを中心に約150点で構成。故人の親族から、同博物館がコレクションの寄贈を受けたことから実現したものの。

直尺、鯨尺、ヤード尺など長さを測るさまざまな道具のほか、質量、体積、環境、数など「はかる」対象ごとに珍しい道具を展示。また、匠原計量器機店で実際に使用された売掛帳やカタログなどの資料や、大正時代の「メートル法実施広告」や広告入り竹さしなど「商業と計量」の観点からも貴重な資料が並び、注目された。

また、2013年に「弥生時代前期に高精度の計量が行われていた」とニュースになった大阪・亀井遺跡の「弥生分銅」や、平賀源内が製作に携わった量器やタルモメートル（感熱昇降器、参考製作品）も展示されるなど、「はかりの文化史」を一覧できる企画展だった。

シンポジウム「はかりの文化史」はこの展覧会で企画されたもので、2018年11月17日に実施された。

シンポジウムの概要は次のとおり。

【開催日時】2018年11月17日、14時～16時30分

【場所】ユニバーシティホール蒼天・B

【受講料】無料

【定員】300名

【タイトル】「はかりの文化史」

【次第】▽開会あいさつ：片山隆男（同大学副学長）▽基調講演「ものをはかる単位と文化」：吉村英祐（大阪工業大学教授）▽シンポジウム＝パネリスト：今西正則（前大阪市経済戦略局産業振興部計量検査所所長）、土田泰秀（東洋計器取締役社長、東洋計量史資料館館長）、横川公子（武庫川女子大学名誉教授・同大学附属総合ミュージアム設置準備室長）、吉村英祐（大阪工業大学教授）、進行：池田治司（同館学芸員）＊肩書きは2018年11月現在のもの

＊終了後、展示会場自由見学



目次

計量史学会定時総会・研究発表会 報告.....1

定時総会議案・報告

特別講演・研究発表の概要

お知らせ

「計量史をさぐる会 2020」(2020年10月16日、日本計量会館).....6

『計量史研究』Vol.42 No.1(No.50)2020.....6

書評等.....7

計量士および計測技術者のための計量管理の基礎と応用 理事 溝口義浩
『これでわかる方程式』の刊行にあたって 副会長 黒須茂
アメリカのブラックアウト変遷史 理事 高松宏之

寄稿.....11

正岡子規を読む 副会長 大井みさほ
知との出会い：私が影響を受けた人 会員 中村邦光

話題 (理事 高松宏之).....13

NMIJ『国際単位系 (SI) 基本単位の定義改定と計量標準』刊行

大阪商業大学商業史博物館紀要第20号刊行

2018年秋季展「はかりの文化史」企画のシンポジウム内容を収録

「計量史研究」の原稿を募集します

人間を中心とした「計る」という行為は人文科学・社会科学・自然科学・文化芸術に限らず、過去・現在・未来のあらゆる行動に関係があります。これらに関係ある原稿を募集しております。種別は総説・論文・書評・原典の翻訳、解説・紹介・紀行、各種資料等、長短を問いません。また表紙を飾る写真に800字以内の解説を付したのもでも結構です。

編集日程は通常、以下のようになっていますので、ご協力の程を。

原稿受理期間 6～9月、校閲・編集期間 9～10月、印刷・校正期間 11～12月、年内配布を目標。
○現在、当学会における編集は、編集部（部門責任者：大井みさほ副会長）が行っております。「計量史研究」に投稿された原稿は、主として理事及び理事選定の委員が校閲に当たっております。更に内容によって、専門域に応じた他の正会員に依頼しております。

「計量史通信」の原稿を募集します

総説、随筆、速報、紀行等の計量に直接、間接関係のある博物館・資料館・美術館・図書館の催し、書評、会員の研究ないし、調査内容の紹介、会員、非会員からの質問（答は原則として通信に掲載します）、その他のニュースなどが主なものです。特に「催し物」は計画段階の漠然としたものでも結構です。締切はなく、常時受け付けます。

●複写される方に

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、著作権者から複写権等の委託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。なお、著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡下さい。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル3F 学術著作権協会

TEL: 03-3475-5618 FAX: 03-3475-5619 E-Mail: jaacc@mtb.biglobe.ne.jp

著作物の転載・翻訳のような、複写以外の許諾は、直接本会へご連絡下さい。

Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright clearance by the copyright owner of this publication.

<Except in the USA>

Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)

641 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan

Phone 81-3-3475-5618 FAX: 81-3-3475-5619 E-mail: jaacc@mtb.biglobe.ne.jp

<In The USA>

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, USA

Phone: (978) 750-8400, FAX: (978) 750-4744 <http://www.copyright.com/>

2020年8月15日発行
一般社団法人日本計量史学会
〒162-0837 東京都新宿区納戸町25-1
TEL/FAX: 03-3269-7989
E-mail: jimushmj.jp
URL: <http://www.shmj.jp>
郵便振替番号 東京 00170-9-66974

The Society of Historical Metrology.
JAPAN
25-1, Nando-cho,
Shinjyuku-ku, Tokyo 162-0837 JAPAN
TEL, FAX: +81-3-3269-7989
jimushmj.jp